

令和5年6月30日(金) 16:30~18:00 岡崎にある愛知学泉大学にて牛や牛乳についての講座を行いました。講師役は(株)明治佐藤氏・(株)清水牧場宮田彩可・愛知県酪農の飯田の3名です。将来学校の栄養教員になろうと学んでいる学生に伝わりましたでしょうか？



教室に入ると牛とギターを持った変なおじさんが待ち受けています。
何んだこの授業は！！



牛と講師の2頭流！？
さりげなく教室を抜け出していつの間にやら着替えて登場。今年は反芻や初乳という言葉や意味も知っている学生がいて牛に対する興味もなかなかのものがありました。
(株)清水牧場は令和4年5月31日につなぎ牛舎からフリーストールの新牛舎へと移行しました。宮田さんはその時の写真を使い、牛の特性(どんな動物か?)や安全安心な牛乳生産のための飼養管理(施設や取り組み)について話をしました。



同じ牛由来の白い飲み物ですが、牛乳・加工乳・乳飲料などそれぞれの目的に合わせた内容です。飲んだ事はあってもその場で飲み比べる機会はないと思います。という事で活発なやりとりがありましたよ。



《今回の講座取材してのコメント》

内容も時間配分も、学生さんを飽きさせない工夫がされていて、私もとても楽しませていただきました。ありがとうございました。

掴みの飯田さんの牛の歌も学生さんが、かけ声や答えで参加する場面が多くあり、最初に一体感が生まれていました。歌詞の内容も、牛のことを知ってほしい。命をいただいていることを理解してほしい。が感じられ、面白いけど、しっかりとした内容で、栄養学の先生を目指す学生さんにとっては内容だけでなく、伝え方についても、とても参考になる授業になったと思います。

また、口があく牛の着ぐるみも面白い。息ぴったりの演技でナイスでした。

続く、宮田さんの清水牧場のお話も、写真が多く、わかりやすいパワーポイントで、学生さんたちは生乳の生産がどのように行われているか。毎日、牧場の方がこれだけ、手をかけているんだ。ということをも良く理解されたと思います。

明治乳業の佐藤さんのお話も、どのようにして牛乳が作られるか。製造方法によって牛乳には色々な種類があること、輸出もされていること等々、牛乳を生産されている方から直接伺って、勉強になったと思います。最後の牛乳の飲み比べは学生さんが輪になり、距離も近く、質問もよく出て、情報交換の良い場になったと思います。

(事前に愛知県内の栄養士を育てる大学等へ酪農インターンシップへの案内を出しましたが)応募がなかったことが少々残念でしたが、将来、先生になる学生さんたちに、今回のように出前講座を続けていくことが、子供たちに酪農についての理解を深めていただく機会、引いては、一般の方に酪農の応援をしていただく機会を増やしていくものと思いました。

これからも期待しています。 某記者

講義を受ける学生は少人数ですが、今回は読売新聞の記者・学校法人安城学園の広報も入りました。世の中何がきっかけになるかわかりません。当初畜産関係ではない大学へ講義に行くのってどうなんだろう?と思いながら始まった講座ですが、広がって行く実感があり大変嬉しく思います。